

しっかり補修すれば柵は機能します

入念に設計・施工された防鹿柵であれば、たとえ破損してもしっかり補修することによって再び機能します。下記の実証試験では、設置後5年が経過し多くの箇所が破損した防鹿柵を完全に補修したところ、少なくとも4ヶ月間はシカの柵内侵入を防ぐことができました。シカが多く生息する場所でも、数ヶ月ごとの点検・補修で「植栽地からシカを排除する」という防鹿柵の機能を維持できると考えられます。

防鹿柵の効果実証試験

急斜面・岩礫地・シカ高密度という悪条件の揃った再生林地で、防鹿柵の内外に多数の自動カメラを設置して2年にわたり動物の出現を記録したところ、しっかりと柵を補修すれば少なくとも4ヶ月間シカが柵内に入らないことが実証されました(下図 ○)。

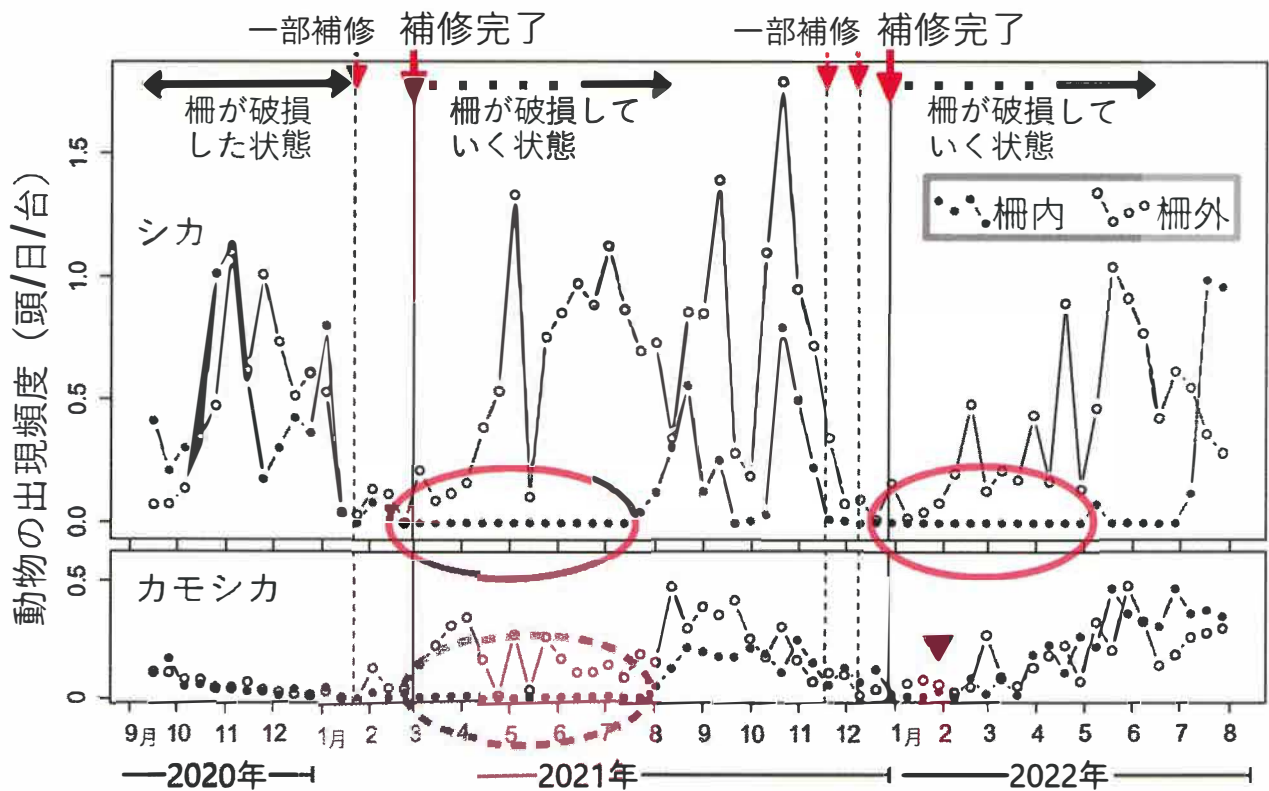


図. 2年間にわたる防鹿柵内外でのシカ・カモシカの出現状況および補修の時期

補修前には柵内外で同程度の動物出現がありました。補修後にはシカ・カモシカともに柵内では撮影されませんでした(図中 ○ と ◻)。ただ、2回目の補修後にはカモシカは早い段階から柵内で確認されました(図中 ▼)。カモシカは潜り込みがシカより上手だと推察されたので、カモシカの生息地では柵の下端(地際)もしっかりと点検・補修することが大切です。



※上記試験の詳細については、別途報告をご参照ください(参考資料2)。

※防鹿柵の設置前に、皆伐地を対象としてどれぐらいのシカが出現しているのか、簡便に調べる方法もあります(参考資料3、4)。